

平成28年度公社等経営評価シート

公益財団法人青森学術文化振興財団

1 法人の概要

28.7.1 現在

| | | | |
|-------------------------|--|----------------|--------------------------------|
| 法人名 | 公益財団法人 青森学術文化振興財団 | 所管部課名 | 総務部総務学事課 |
| 代表者職氏名 | 理事長 若井 敬一郎 | 設立年月日 | 平成4年7月1日 |
| 住所 (電話番号) (FAX番号) | 〒 030-0822 青森市中央一丁目22番5号 017-723-3593 017-723-3593 | ホームページ アドレス | http://www.aogaku.sakura.ne.jp |
| | | E-mail アドレス | aogakuzai@lagoon.ocn.ne.jp |

| | | | |
|----------|--------------|--------------|---------|
| 資本金・基本金等 | | うち県の出資等額 | 県の出資等比率 |
| 資本金・基本金等 | 2,012,294 千円 | 1,000,000 千円 | 49.7 % |

主な出資者等の構成（出資等比率順位順）

| 氏名・名称 | 金額（千円） | 出資等比率（%） | 氏名・名称 | 金額（千円） | 出資等比率（%） |
|------------|-----------|----------|-------|--------|----------|
| 1 青森県 | 1,000,000 | 49.7 | 6 | | |
| 2 青森市 | 1,000,000 | 49.7 | 7 | | |
| 3 犬飼 守 | 10,000 | 0.5 | 8 | | |
| 4 基本財産受取利息 | 2,294 | 0.1 | 9 | | |
| 5 | | | 10 | | |

設立の目的・事業の目的

青森県内の地域における教育・研究活動等の振興を図り、もって県内の学術・文化の発展に寄与することを目的とする。

事業概要

(単位：千円、%)

| 主要事業名 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 内容 |
|----------------------|------------------|--------|--------|--------------------------------|
| 事業1 財団助成事業 | 23,196 | 20,586 | 26,475 | 青森県内の地域振興に関する公開講座、地域研究事業に対する助成 |
| | 全体事業に占める割合 66.05 | 60.48 | 66.29 | |
| 事業2 青森公立大学助成事業 | 5,962 | 7,819 | 6,607 | 青森公立大学学生・教員の人材育成に対する助成 |
| | 全体事業に占める割合 16.98 | 22.97 | 16.54 | |
| 事業3 学術研究事業 | 832 | 685 | 933 | 青森県の地域振興をテーマとした懸賞論文事業 |
| | 全体事業に占める割合 2.37 | 2.01 | 2.34 | |
| その他の事業 | 3,702 | 3,521 | 3,661 | |
| | 全体事業に占める割合 10.54 | 10.34 | 9.17 | |
| 全体事業（正味財産増減計算書：経常費用） | 35,119 | 34,037 | 39,938 | |

2 経営理念・経営目標

経営理念

地域における教育・研究活動等の振興を図り、もって青森県内の学術・文化の発展に寄与することを目的とし、安定的な資金確保により事業を継続的に維持することが当財団の経営理念である。
変動する経済情勢において安定的な資産運用を行うことは、著しく困難な状況になってきている。しかし、資金運用から生じる資金確保が困難であるという理由から、短絡的に事業を削減するという対処法ではなく、より適切な運用方法の検討等を行い、安定的及び効果的な資金運用により当法人設立目的を達成するための事業を継続的に行うことが当財団の基本目標である。

経営目標

当年度においても、資産運用管理規程その他の規程に基づき、保有している外貨の為替レートや資産の安全性に最も留意しながらも効果的な資産運用を行い、基本財産のみならず、運用財産をも含めた保有財産の安全性の確保及び安定的な事業資金の確保に努める。

3 代表者から県民の皆さまへ

当財団は、平成5年4月に開学しました青森公立大学の教育・研究活動を支援するほか、県内の学術・文化の発展に寄与することを目的に平成4年7月に設立されました。以降、青森公立大学が地域に開かれた大学として、大学が有する知的財産を地域社会に還元するための事業等に助成を行うとともに、地域の発展を図るための学術研究や学術・文化の振興に係る事業に対する助成を行うことで、地域の学術・文化の振興に貢献してまいりました。
21世紀に入り、私たちは、かつて経験したことのない激動の時代を迎えております。このような中で、当財団に期待されるものは益々高くなるものと思われ、その期待に添うべく、私たちも積極的に各種事業に取り組みで参りたいと考えております。

4 組織の状況

| 区分 | 平成26年度 | | 平成27年度 | | 平成28年度 | | 前年度増減 | 増減理由 |
|------------|--------|-----|------------|-----|--------|------|------------|------|
| | 県派遣 | 県OB | 県派遣 | 県OB | 県派遣 | 県OB | | |
| 役員 | 常勤役員 | 1 | | 1 | | 1 | | |
| | 非常勤役員 | 5 | | 5 | | 5 | | |
| | 計 | 6 | | 6 | | 6 | | |
| 職員 | 常勤職員 | 6 | | 6 | | 6 | | |
| | 非常勤職員 | | | | | | | |
| | 臨時職員 | 1 | | 1 | | 1 | | |
| | 計 | 7 | | 7 | | 7 | | |
| 常勤職員の年代別構成 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代～ | 平均年齢 | プロパー職員勤続年数 | |
| | 1 | 1 | 2 | 2 | | - | - | |
| 役員平均年収(千円) | - | | 職員平均年収(千円) | | - | | | |

5 財務の状況

(単位:千円、%)

| 項目 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 財務分析指標 | 算出方法 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | |
|---------|-------------------|---------|---------|----------|--|------------|--------|--------|--------|
| 収益等状況 | 経常収益 | 39,745 | 36,184 | 34,881 | 財務構造 | 正味財産比率 | 99.81 | 99.82 | 99.67 |
| | 経常費用 | 35,119 | 34,037 | 39,938 | | 経常比率 | 113.17 | 106.31 | 87.34 |
| | 経常増減額 | 11,559 | 22,157 | ▲ 18,835 | | 総資産当期経常増減率 | 0.50 | 0.96 | ▲ 0.82 |
| | 経常外増減額 | ▲ 477 | ▲ 8 | ▲ 40 | | 県財政関与率 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| | 当期一般正味財産増減額 | 11,082 | 22,149 | ▲ 18,875 | | 補助金収入率 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| | 一般正味財産期末残高 | 277,168 | 299,317 | 280,442 | | 受託等収入率 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| | 借入金残高 | 0 | 0 | 0 | | 効率性 | 管理費比率 | 4.06 | 4.19 |
| 県費等受入状況 | 補助金※ア | | | | 人件費比率 | | 11.56 | 12.10 | 10.22 |
| | 事業費 | | | | 財務健全性 | 流動比率 | 678.12 | 978.02 | 393.32 |
| | 運営費(人件費含む) | | | | | 借入金比率 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| | 受託事業収入※イ | | | | 財務の状況についての法人の分析【法人コメント】 | | | | |
| | 負担金 ※ウ | | | | 「経常増減額」については、平成25年度及び平成26年度の余剰金を解消すべく、公益目的事業会計における、助成事業(公2)の追加募集を行ったことによる支払助成金、及びそれに係る人件費等事業費の増加したこと、また、前期末から当期末にかけて為替相場が円高・ドル安に傾いたことにより、合計18,835,270円の減額となった。 今後の償還債券等については、金利動向、経済情勢等を加味した上で、これまで同様、資産運用委員会とよく相談し、運用していく。 | | | | |
| | 交付金 ※エ | | | | | | | | |
| | 貸付金 ※オ | | | | | | | | |
| | 無利子借入金による利息軽減額※カ | | | | | | | | |
| | 減免額(土地・施設等使用料等)※キ | | | | | | | | |
| | 債務保証残高 | | | | | | | | |
| 損失補償残高 | | | | | | | | | |

※上記力については、長期プライムレートによる試算額

6 経営評価結果等への対応状況

| これまでの経営評価結果等 | 対応状況【法人記入】 | 左に係る県所管課の意見・評価【県所管課記入】 |
|-----------------------------------|---|---|
| リスクの低い運用手法に係る検討状況について | 基本財産については、安全性及び確実性が認められる、国債・政府保証債・地方債での運用を行っている。今後も金利動向等に留意しながら、安定的な運用を図っていく。 | 今後も、資産運用委員会を活用した機動的かつ組織的な対応を行い、その効率性の向上を図るのみでなく、安全性が確保された運用となるよう留意されたい。 |
| 【県所管課】経営評価の実施主体の移行に向けた検討・協議状況について | 青森市へ実施主体を移行する方向で、青森県総務部行政経営管理課と青森市政策推進課が現在協議中 | 県と青森市は、当財団の同率の筆頭出資者ではあるが、当財団の設立の経緯や青森市の職員が当財団職員を併任していることを考慮すると、当財団の将来的な在り方については、青森市がより長期的な視点を持ちながら、その自律性を高めるための助言・指導を行うことが望ましい。 したがって、当財団とより密接な関係性を有する青森市が当財団に対する指導・助言を主体的に行い、他方の筆頭出資者である県は、青森市と連携を取りながら、適正な関与を行うことが適当であると考える。 【公社等経営評価委員会事務局(行政経営管理課)】 県が経営評価を行わない場合は青森市が評価実施するとの青森市の見解を確認したので、今後は評価の対象としない方向で整理していく。 |

7 評点集計（経営評価指標）

| 評価項目 | 対象指標 評点数 | 法人評価 | | 《評価項目：評価の視点》 |
|----------|-------------|------|-------|--|
| | | 評点数 | 得点率 | |
| 目的適合性 | 16 | 13 | 81.25 | 「公社等」として、現時点において、当初の設立目的あるいは公共的・公益的目的に適合した事業を行っているか再確認が必要である。 ○法人が現在行っている事業と設立当初の目的等が適合しているか。 ○社会経済情勢等の変化に対応するため事業の検証・見直しが行われているか。 |
| 計画性 | 32 | 28 | 87.50 | 効率的な法人運営及び健全な経営を維持していくためには、経営資源、外部環境を把握し、計画的に運営していくことが必要である。 ○自主的・自律的な法人運営を行うための中期的なビジョン(計画)を有しているか。 ○計画の達成状況等を検証し、適切・迅速に経営改善等が図られる仕組み(PDCAサイクル)となっているか。 |
| 組織運営の健全性 | 39 | 34 | 87.18 | 法人の出資金等に県の公金が含まれていること等から、より効果的・効率的な組織・財務等における内部管理体制等の確立が求められる。 ○自律した事業主体として内部統制等が確立されているか。 ○持続可能な事業運営のために人材育成等が図られているか。 |
| 経営の効率性 | 26 | 24 | 92.31 | 持続的・安定的に法人の運営を行うためには、経営環境の変化等に対応しつつ、不断の経営の効率化に努めていく必要がある。 ○経費の節減、収入確保等が図られているか。 ○人的・物的な経営資源が有効活用されているか。 |
| 財務状況の健全性 | 18 | 13 | 72.22 | 持続的・安定的な法人の運営を行うためには、経営基盤を強化し、財務面での健全性を確保していく必要がある。 ○自主財源が確保され、安定的に収益が確保される健全な財務体質であるか。 ○借入金の規模が適正な水準であり、かつ、適正に返済されているか。 |
| 合計 | 131 | 112 | 85.50 | |

| 評価項目 | 法人の自己評価（経営概況、経営上の課題・対策等） | 県所管課の評価 | |
|----------|--|---------|---|
| | | 評価 | 意見等 |
| 目的適合性 | 平成27年度助成事業について、八戸地区からの応募がなかったことから、八戸市の大学及び短期大学に出向き、当財団の助成事業の案内を行った。このことにより、平成28年度助成事業については、八戸工業大学から新規で応募があった。 今後も、当財団のホームページによる募集やポスター等広告を活用し、広く県内へ発信することで、応募件数の増加及び、応募者の範囲拡大を図る。 また、社会情勢の見通しを立てることが困難であることから、事業の実施方法等を随時見直し、事業を遂行することとしている。 | ◎ | 当財団は、高等教育機関等が行う学術・文化の発展に寄与する事業に対する助成等を通して県内の教育・研究活動の振興を図っており、公益性があり、事業の周知も積極的に行っていると認められる。 当財団が事業を実施するに当たっては、県の出資目的を十分に考慮し、公益目的事業比率の順守のみならず、その向上を図ることに努めるとともに、外部環境の変化に対応した事業内容の見直しを引き続き行っていくことに努められたい。 |
| 計画性 | 中期経営計画に基づき、これまでの実績や差異分析を踏まえながら、より計画の実効性を高め、収入に見合った事業を行っていく。 | ◎ | 当財団は、法人運営に関する各種の計画の策定や事業実績に関する分析等を自主的に行った上でその運営を行うとともに、資産の運用に関する内部組織を設置し、その運用について機動的な対応を行っていることから、効率的かつ計画性のある法人運営がなされていると認められる。 |
| 組織運営の健全性 | 内部体制については、複数の担当者による相互チェックと複数承認が機能化されており、内部監査の実効性を高めている。 また、事業運営に関する研修会等に積極的に参加することで、専門知識を高め、業務へ活かすことができている。 | ◎ | 当財団では、処務規定や会計規程等を策定し、これに基づいた内部管理・統制を実施している。また、外部研修や内部研修に人員を積極的に参加させることで人材育成を図っており、当財団の組織運営は健全であると認められる。 |
| 経営の効率性 | 支出については、引き続きこれまでの実績に基づいた適切な予算を計上していく。 収入については、安全性及び確実性が認められる、国債・政府保証債・地方債の運用を基本としながら、可能な限り高い運用益を得られるよう、最新の情報を収集しながら運用を行っていく。 | ◎ | 当財団の資産運用や内部管理経費の執行について、その内容及び額ともに適切であり、当財団の運営の効率性は良好であると認められる。 |
| 財務状況の健全性 | マイナス金利政策導入後の影響については、国債や地方債での利益獲得が見込めなくなっていることから、状況に応じて運用方針の見直しを検討する。 | ○ | 県からの財政支援や借入金を受けておらず、滞留債権も生じていないため、財務状況はおおむね良好と認められるが、昨今の経済状況の変化により、国債等の固定金利から利益獲得が困難な状況になっており、新たな運営方針について検討する必要がある。 |

参考 財務情報

① 正味財産増減計算書

(単位:千円、%)

| 区分 | | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 対前年度比 | | |
|----------|--------------|----------------|-----------|-----------|---------|--------|--------|
| 一般正味財産の部 | 経常収益 | 基本財産運用益 | 31,246 | 26,372 | 25,947 | 98.39 | |
| | | 特定資産運用益 | | 8,494 | 8,908 | 104.87 | |
| | | 事業収益 | | | | | |
| | | 受取補助金等 | | | | | |
| | | 受取負担金 | | | | | |
| | | その他収益 | 8,499 | 1,317 | 26 | 1.97 | |
| | | 経常収益計 | 39,745 | 36,184 | 34,881 | 96.40 | |
| | 経常増減の部 | 経常費用 | 事業費 | 33,692 | 32,611 | 37,671 | 115.52 |
| | | | 管理費 | 1,427 | 1,426 | 2,267 | 158.98 |
| | | | その他 | | | | |
| | | | (うち役員人件費) | | | | |
| | | | (うち職員人件費) | 4,059 | 4,120 | 4,081 | 99.05 |
| | | | (うち減価償却費) | 54 | 28 | 28 | 100.00 |
| | | 経常費用計 | 35,119 | 34,037 | 39,938 | 117.34 | |
| | | 評価損益調整前当期経常増減額 | 4,626 | 2,147 | ▲ 5,057 | — | |
| | 評価損益等 | 6,933 | 20,010 | ▲ 13,778 | — | | |
| | 当期経常増減額 | 11,559 | 22,157 | ▲ 18,835 | — | | |
| 減の部 | 経常外増 | 経常外収益 | 234 | | | | |
| | | 経常外費用 | 711 | 8 | 40 | 500.00 | |
| | 当期経常外増減額 | ▲ 477 | ▲ 8 | ▲ 40 | 500.00 | | |
| | 当期一般正味財産増減額 | 11,082 | 22,149 | ▲ 18,875 | — | | |
| | 一般正味財産期末残高 | 277,168 | 299,317 | 280,442 | 93.69 | | |
| 指定正味財産の部 | 当期指定正味財産増減額 | 505 | 566 | 280 | 49.47 | | |
| | 当期指定正味財産期末残高 | 2,011,449 | 2,012,015 | 2,012,294 | 100.01 | | |
| | 正味財産期末残高 | 2,288,617 | 2,311,332 | 2,292,736 | 99.20 | | |

② 貸借対照表

(単位:千円、%)

| 区分 | | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 対前年度比 |
|--------|---------------|-----------|-----------|-----------|--------|
| 資産の部 | 流動資産 | 29,573 | 41,644 | 29,979 | 71.99 |
| | 固定資産 | 2,263,405 | 2,273,946 | 2,270,380 | 99.84 |
| | (うち基本財産) | 2,011,449 | 2,012,015 | 2,012,294 | 100.01 |
| | (うち特定資産) | | 261,904 | 258,086 | 98.54 |
| | (うちその他の固定資産) | 251,956 | 27 | | — |
| | 資産合計 | 2,292,978 | 2,315,590 | 2,300,359 | 99.34 |
| 負債の部 | 流動負債 | 4,361 | 4,258 | 7,622 | 179.00 |
| | (うち短期借入金) | | | | |
| | 固定負債 | | | | |
| | (うち長期借入金) | | | | |
| | 負債合計 | 4,361 | 4,258 | 7,622 | 179.00 |
| | (うち有利子負債の額) | | | | |
| 正味財産の部 | 指定正味財産 | 2,011,449 | 2,012,015 | 2,012,294 | 100.01 |
| | (うち基本財産への充当額) | 2,011,449 | 2,012,015 | 2,012,294 | 100.01 |
| | (うち特定資産への充当額) | | | | |
| | 一般正味財産 | 277,168 | 299,317 | 280,442 | 93.69 |
| | (うち基本財産への充当額) | | | | |
| | (うち特定資産への充当額) | | 261,904 | 258,086 | 98.54 |
| | 正味財産合計 | 2,288,617 | 2,311,332 | 2,292,736 | 99.20 |
| | 負債及び正味財産合計 | 2,292,978 | 2,315,590 | 2,300,358 | 99.34 |

③ 借入金の状況

| 区分 | | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 |
|-------------|------|--------|--------|--------|
| 前年度末借入金残高 | 県 | | | |
| | 金融機関 | | | |
| | その他 | | | |
| | 計 | | | |
| 当該年度借入額(新規) | 県 | | | |
| | 金融機関 | | | |
| | その他 | | | |
| | 計 | | | |
| 当該年度元金償還額 | 県 | | | |
| | 金融機関 | | | |
| | その他 | | | |
| | 計 | | | |
| 当該年度借入金残高 | 県 | | | |
| | 金融機関 | | | |
| | その他 | | | |
| | 計 | | | |

④ 債務保証・損失補償の状況

| 区分 | | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 |
|-------------|----------|--------|--------|--------|
| 債務保証に係る債務残高 | 県 | | | |
| | 国 | | | |
| | 他の地方公共団体 | | | |
| | 計 | | | |
| 債務保証の内容 | | | | |
| 損失補償に係る債務残高 | 県 | | | |
| | 国 | | | |
| | 他の地方公共団体 | | | |
| | 計 | | | |
| 損失補償の内容 | | | | |